

専修以外の基礎科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
基礎海外研修Ⅰ	基礎海外研修Ⅰ	3	文学部学務教育室長	通年			1
基礎海外研修Ⅱ	基礎海外研修Ⅱ	6	文学部学務教育室長	通年			2
人文統計学	統計学の基礎	2	木村 邦博	3	水	2	3
人文統計学	推測統計と多変量解析 の基礎	2	木村 邦博	4	水	2	4
人文情報処理	コンピュータを活用し たデータ処理と情報発信	2	湊 信吾	3	金	2	5
人文情報処理	コンピュータを活用し たデータ処理と情報発信	2	湊 信吾	4	金	2	6
英語演習	英文読解演習（1）	2	三枝和彦	3	火	4	7
英語演習	英文読解演習（2）	2	三枝和彦	4	火	4	8
高等英文解釈法	英文解釈の技法	2	鈴木 亨	3	金	2	9
高等英文解釈法	英文解釈の技法	2	鈴木 亨	4	金	2	10
英語論文作成法	Academic Writing I	2	マックス・フィリップ プス	3	水	2	11
英語論文作成法	Academic Writing II	2	マックス・フィリップ プス	4	水	2	12
ギリシャ語	古典ギリシャ語入門 （1）	2	今井誠二	3	月	5	13
ギリシャ語	古典ギリシャ語入門 （2）	2	今井誠二	4	月	5	14
ギリシャ語	ホメロス『オデュッセ イア』第1巻演習	2	嶺岸佑亮	3	月	4	15
ギリシャ語	ホメロス『オデュッセ イア』第2巻演習	2	嶺岸佑亮	4	月	4	16
ラテン語	ラテン語文法入門・基 礎文法	2	宮崎正美	3	金	3	17

専修以外の基礎科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	曜日	講時	頁
ラテン語	ラテン語文法	2	嶺岸佑亮	4	金	4	18
ラテン語	ラテン語原典講読	2	荻原理	3	火	3	19
ラテン語	ラテン語原典講読	2	荻原理	4	火	3	20
サンスクリット語	サンスクリット語基礎 演習	2	笠松 直	3	木	3	21
サンスクリット語	サンスクリット語基礎 演習	2	笠松 直	4	木	3	22
中国語	中国語中級会話	2	チャン ペイルー	3	水	2	23
中国語	中国語中級会話	2	チャン ペイルー	4	水	2	24
朝鮮語	韓国語入門	2	権 来順	3	水	2	25
朝鮮語	韓国語初級	2	権 来順	4	水	2	26
イタリア語	イタリア語初級（前 期）	2	フォンガロ エンリ コ	3	木	3	27
イタリア語	イタリア語初級（後 期）	2	フォンガロ エンリ コ	4	木	3	28
イタリア語	イタリア語中級（前 期）	2	フォンガロ エンリ コ	3	木	4	29
イタリア語	イタリア語中級（後 期）	2	フォンガロ エンリ コ	4	木	4	30
イタリア語	イタリア語上級（前 期）	2	フォンガロ エンリ コ	3	水	4	31
イタリア語	イタリア語上級（後 期）	2	フォンガロ エンリ コ	4	水	4	32
専門中国語	中国語中級読解	2	チャン ペイルー	3	火	3	33
専門中国語	中国語中級読解	2	チャン ペイルー	4	火	3	34

専修以外の基礎科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
専門ドイツ語	ドイツ語読解力の養成 とドイツ語基礎の徹底	2	松崎 裕人	3	水	4	35
専門フランス語	フランス語テキストの 読解力を身につける	2	石田雄樹	3	水	3	36
専門フランス語	Expression française orale et écrite	2	メヴェル ヤン	5	水	5	37
漢文講読	「諸子百家」文献講読	2	渡部東一郎	3	金	3	38
漢文講読	「唐宋八家文」講読	2	渡部東一郎	4	金	3	39

科目名：基礎海外研修 I / Overseas Study (Introductory Seminar) I

曜日・講時：通年集中 その他 連講

Semester：通年， 単位数：3

担当教員：文学部学務教育室長

講義コード：LB98836， 科目ナンバリング：LHM-OAR903J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：基礎海外研修 I

2. Course Title (授業題目)：Overseas Study (Introductory Seminar) I

3. 授業の目的と概要：

この授業は、3 か月以上の海外留学を行うものを対象とし、その海外留学経験を深化させることを目的とする。海外留学中に月一回程度のレポートを提出し（電子メール）、帰国後には留学で学んだことを整理し、総合的に振り返るレポートを提出してもらう。また面接を実施し、留学で得た知見を発表してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course is aimed at students who will be studying abroad for 3 months or more and is intended to deepen and enrich the experience of studying overseas. Students are required to submit monthly reports (by email) during their time as exchange students and a comprehensive report on the knowledge they gained abroad after they return. Interviews will also be conducted and students will give a presentation on their experiences abroad.

5. 学習の到達目標：

海外留学で得た経験と知識をきちんと表現できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will learn to properly express their experiences studying abroad and the knowledge that they gained.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. レポート作成とそれに基づいた指導 1
2. レポート作成とそれに基づいた指導 2
3. レポート作成とそれに基づいた指導 3
4. レポート作成とそれに基づいた指導 4
5. レポート作成とそれに基づいた指導 5
6. レポート作成とそれに基づいた指導 6
7. レポート作成とそれに基づいた指導 7
8. レポート作成とそれに基づいた指導 8
9. レポート作成とそれに基づいた指導 9
10. レポート作成とそれに基づいた指導 10
11. レポート作成とそれに基づいた指導 11
12. レポート作成とそれに基づいた指導 12
13. レポート作成とそれに基づいた指導 13
14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1
15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2

8. 成績評価方法：

レポート[50%]・面接試験[50%]

9. 教科書および参考書：

なし。

10. 授業時間外学習：

留学先の大学で学んだことと共に、日々の暮らしを通じ、日本との文化的な違い・驚きを、きちんと記録しておくこと。

Students will keep a record of both the things they learn at the foreign university and the cultural differences and surprising things they experience in their daily lives.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

この授業は3ヶ月以上の海外留学を行って帰国したものを対象とする。

海外留学に関連した授業としては「基礎海外研修 I」, 「基礎海外研修 II」, 「発展海外研修 I」, 「発展海外研修 II」があるが、合計6単位を上限とする。

This course is aimed at students who have returned from 3 months or more of student exchange. The courses connected to overseas study are “Overseas Study (Introductory Lecture) I”, “Overseas Study (Introductory Lecture) II”, “Overseas Study (Advanced Seminar) I” and “Overseas Study (Advanced Seminar) II”.

科目名：基礎海外研修Ⅱ／ Overseas Study (Introductory Seminar) II

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：通年， 単位数：6

担当教員：文学部学務教育室長

講義コード：LB98837, 科目ナンバリング：LHM-OAR904J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：基礎海外研修Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Overseas Study (Introductory Seminar) II

3. 授業の目的と概要：

この授業は、6か月以上の海外留学を行うものを対象とし、その海外留学経験を深化させることを目的とする。海外留学中に月一回程度のレポートを提出し（電子メール）、帰国後には留学で学んだことを整理し、総合的に振り返るレポートを提出してもらう。また面接を実施し、留学で得た知見を発表してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course is aimed at students who will be studying abroad for 6 months or more and is intended to deepen and enrich the experience of studying overseas. Students are required to submit monthly reports (by email) during their time as exchange students and a comprehensive report on the knowledge they gained abroad after they return. Interviews will also be conducted and students will give a presentation on their experiences abroad.

5. 学習の到達目標：

海外留学で得た経験と知識をきちんと表現できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will learn to properly express their experiences studying abroad and the knowledge that they gained.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. レポート作成とそれに基づいた指導 1
2. レポート作成とそれに基づいた指導 2
3. レポート作成とそれに基づいた指導 3
4. レポート作成とそれに基づいた指導 4
5. レポート作成とそれに基づいた指導 5
6. レポート作成とそれに基づいた指導 6
7. レポート作成とそれに基づいた指導 7
8. レポート作成とそれに基づいた指導 8
9. レポート作成とそれに基づいた指導 9
10. レポート作成とそれに基づいた指導 10
11. レポート作成とそれに基づいた指導 11
12. レポート作成とそれに基づいた指導 12
13. レポート作成とそれに基づいた指導 13
14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1
15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2

8. 成績評価方法：

レポート[50%]・面接試験[50%]

9. 教科書および参考書：

なし。

None.

10. 授業時間外学習：

留学先の大学で学んだことと共に、日々の暮らしを通じ、日本との文化的な違い・驚きを、きちんと記録しておくこと。

Students will keep a record of both the things they learn at the foreign university and the cultural differences and surprising things they experience in their daily lives.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：

この授業は6ヶ月以上の海外留学を行って帰国したものを対象とする。

海外留学に関連した授業としては「基礎海外研修Ⅰ」、「基礎海外研修Ⅱ」、「発展海外研修Ⅰ」、「発展海外研修Ⅱ」があるが、合計6単位を上限とする。

This course is aimed at students who have returned from 6 months or more of student exchange. The courses connected to overseas study are “Overseas Study (Introductory Lecture) I”, “Overseas Study (Introductory Lecture) II”, “Overseas Study (Advanced Seminar) I” and “Overseas Study (Advanced Seminar) II”.

科目名：人文統計学／ Statistics

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB33206, 科目ナンバリング：LHM-PRI201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：統計学の基礎

2. Course Title (授業題目) : Elementary Statistics

3. 授業の目的と概要：

統計学の基礎を学ぶ。

特に、データ収集・測定の見方の基本を理解し、代表値や変動の測定の算出、探索的データ解析、クロス集計表など、記述統計学の手法を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course serves as an introductory course on elementary statistics for social data analysis, which should be useful for students majoring in humanities and social sciences. It covers various topics in descriptive statistics to help students understand the basics of measurement and data analysis, ranging from central tendency, measures of variation to crosstabulation.

5. 学習の到達目標：

官庁統計や簡単な調査報告・論文を読めるようになるための基礎的な統計学について学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students learn about elementary statistical methods for interpreting academic and governmental reports that contain statistics and graphs.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. データと測定(1)
2. データと測定(2)
3. 度数分布と比率(1)
4. 度数分布と比率(2)
5. 代表値と変動(1)
6. 代表値と変動(2)
7. グラフによるデータの表現(1)
8. グラフによるデータの表現(2)
9. クロス集計表(1)
10. クロス集計表(2)
11. 関連の測度(1)
12. 関連の測度(2)
13. 3変数間の関係を考える（因果関係、相関関係、疑似相関）(1)
14. 3変数間の関係を考える（因果関係、相関関係、疑似相関）(2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート（10回）による。

9. 教科書および参考書：

教科書：ボーンシュテット&ノーキ（海野他訳）『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社

10. 授業時間外学習：

教科書と補足資料（ISTUで配付）で予習・復習をする。

教科書の各章末にある「一般的問題」のうち指定されたものについて、レポートを作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

- (1) 人文統計学（推測統計と多変量解析の基礎）とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目Cに対応。

科目名：人文統計学／ Statistics

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB43204, 科目ナンバリング：LHM-PRI201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：推測統計と多変量解析の基礎

2. Course Title (授業題目) : Statistical Inference and Multivariate Analysis

3. 授業の目的と概要：

より高度な統計学の基礎を学ぶ。

特に、確率分布と統計的推測の考え方や、平均・比率の差の検定・推定、分散分析、相関分析、回帰分析、パス解析などの手法について理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course serves as an advanced course on statistics for social data analysis, which should be useful for students majoring in humanities and social sciences. It covers various topics in statistical inference and bivariate/multivariate analyses to help students understand the concepts of estimation, significance tests, analysis of variance, correlation, and regression.

5. 学習の到達目標：

「統計学の基礎」をふまえて、より高度な統計的方法を理解するための基本事項について学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students learn about advanced statistical methods including statistical inference and bivariate/multivariate analyses.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 統計的推測と仮説検定(1)：確率論の基礎
2. 統計的推測と仮説検定(2)：統計的推定
3. 統計的推測と仮説検定(3)：統計的検定の理論
4. 2 平均値の差の検定(1)
5. 2 平均値の差の検定(2)
6. 複数平均値の差の検定(1)
7. 複数平均値の差の検定(2)
8. 2 変数の関連の分析：クロス集計表における関連の測度
9. 2 変数の関連の分析：相関係数
10. 2 変数の関連の分析：偏相関、因果推論、生態学的誤謬
11. 回帰分析の基礎(1)
12. 回帰分析の基礎(2)
13. 重回帰分析(1)
14. 重回帰分析(2)
15. 因果モデルとパス分析の基礎

8. 成績評価方法：

レポート（10 回）による。

9. 教科書および参考書：

教科書：ボンシュテット&ノーキ（海野他訳）『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社

10. 授業時間外学習：

教科書と補足資料（ISTU で配付）で予習・復習をする。

教科書の各章末にある「一般的問題」のうち指定されたものについて、レポートを作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

- (1) 人文統計学（統計学の基礎）とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 D に対応。

科目名：人文情報処理／ Information Processing for the Humanities

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：湊 信吾（非常勤講師）

講義コード：LB35504, 科目ナンバリング：LHM-HUI201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：コンピュータを活用したデータ処理と情報発信

2. Course Title (授業題目) : Data processing and information providing with a computer

3. 授業の目的と概要：

この授業では Excel などのアプリケーションやプログラミング言語を使用して、データの分析や可視化、情報発信を行えるようになるための基本的な情報処理技術を実習を通して習得してもらうことを目的としている。

以下の予定で講義および実習を行う。内容を変更する場合には授業中に連絡する。

- ・ Excel では表を使用したデータ処理について練習する。
- ・ R を使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。
- ・ インターネットで文書を公開するには Web ページを作成する。Web ページを作るためのプログラミング言語として HTML、CSS および JavaScript の基本について学ぶ。
- ・ SQL を使用したデータベースのプログラミングについて練習する。
- ・ プログラミング言語 Python を用いてプログラミングの練習を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

- ・ Excel を使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。
- ・ R を使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。
- ・ PowerPoint のスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作るようになる。
- ・ Web ページを作ることで情報を外部に公開する方法について理解を深める。
- ・ SQL のプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。
- ・ プログラミング言語 Python を使用しプログラミングの楽しさを体験してもらう。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション として授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明
2. Excel (表計算の基本)
3. Excel (グラフの作成)
4. Excel (テキストファイルの扱い方)
5. Excel (組み込み関数の応用)
6. Excel (VBA プログラミング)
7. R を利用したデータ解析とグラフの作成
8. PowerPoint を使用したスライドの作成
9. Access で SQL を使用したデータベースの操作
- 10～13. HTML、CSS、JavaScript を使用した Web ページの作成 (その 1～その 4)
- 14、15. プログラミング言語 Python を使用したプログラミング (基本とライブラリの利用)

授業は前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。

8. 成績評価方法：

毎回、授業時間内にレポートを印刷し提出してもらう。レポートの内容および提出日時により評価を決定する。

9. 教科書および参考書：

毎週、週末にインターネット経由でテキストを公開する。参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。

10. 授業時間外学習：

<事前学習>毎週、週末にインターネット経由でテキストを公開するのでそれを見て予習をしてもらいたい。また、テキスト中の語句でわからないところがあれば参考書などを利用して勉強しておいてほしい。

<事後学習>実習後もう一度振り返り、再度試してみることで確実に授業で行ったことを身につけることができると考えている。また、授業中に紹介した参考書でさらに勉強することで知識を深めることができる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

連絡用のメールアドレス、テキスト公開用の URL についてはオリエンテーション時に説明する。

科目名：人文情報処理／ Information Processing for the Humanities

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：湊 信吾（非常勤講師）

講義コード：LB45504, 科目ナンバリング：LHM-HUI201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：コンピュータを活用したデータ処理と情報発信

2. Course Title (授業題目) : Data processing and information providing with a computer

3. 授業の目的と概要：

この授業では Excel などのアプリケーションやプログラミング言語を使用して、データの分析や可視化、情報発信を行えるようになるための基本的な情報処理技術を実習を通して習得してもらうことを目的としている。

以下の予定で講義および実習を行う。内容を変更する場合には授業中に連絡する。

- ・ Excel では表を使用したデータ処理について練習する。
- ・ R を使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。
- ・ インターネット上で文書を公開するには Web ページを作成する。Web ページを作るためのプログラミング言語として HTML、CSS および JavaScript の基本について学ぶ。
- ・ SQL を使用したデータベースのプログラミングについて練習する。
- ・ プログラミング言語 Python を用いてプログラミングの練習を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

- ・ Excel を使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。
- ・ R を使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。
- ・ PowerPoint のスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作成することができるようになる。
- ・ Web ページを作成することで情報を外部に公開する方法について理解を深める。
- ・ SQL のプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。
- ・ プログラミング言語 Python を使用しプログラミングの楽しさを体験してもらう。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション として授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明
2. Excel (表計算の基本)
3. Excel (グラフの作成)
4. Excel (テキストファイルの扱い方)
5. Excel (組み込み関数の応用)
6. Excel (VBA プログラミング)
7. R を利用したデータ解析とグラフの作成
8. PowerPoint を使用したスライドの作成
9. Access で SQL を使用したデータベースの操作
- 10～13. HTML、CSS、JavaScript を使用した Web ページの作成 (その 1～その 4)
- 14、15. プログラミング言語 Python を使用したプログラミング (基本とライブラリの利用)

授業は前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。

8. 成績評価方法：

毎回、授業時間内にレポートを印刷し提出してもらう。レポートの内容および提出日時により評価を決定する。

9. 教科書および参考書：

毎週、週末にインターネット経由でテキストを公開する。参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。

10. 授業時間外学習：

<事前学習>毎週、週末にインターネット経由でテキストを公開するのでそれを見て予習をしてもらいたい。また、テキスト中の語句でわからないところがあれば参考書などを利用して勉強しておいてほしい。

<事後学習>実習後もう一度振り返り、再度試してみることで確実に授業で行ったことを身につけることができると考えている。また、授業中に紹介した参考書でさらに勉強することで知識を深めることができる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

連絡用のメールアドレス、テキスト公開用の URL についてはオリエンテーション時に説明する。

科目名：英語演習／ Seminar in Practical English

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：三枝和彦（非常勤講師）

講義コード：LB32403, 科目ナンバリング：LHM-ENG201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：英文読解演習（1）

2. Course Title (授業題目)：Seminar in reading skills in English (1)

3. 授業の目的と概要：

英文を正確に読むことができるようになるために、英語で書かれた小説やエッセイ、論文を精読していく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to train students to read English passages correctly through reading intensively novels, essays and articles in English.

5. 学習の到達目標：

(1) 英文を正確に日本語に訳すことができるようになる。

(2) 英文中の語の文法的関係を分析し、説明することができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. Students will be able to translate English passages into Japanese correctly.

2. Students will be able to analyze and explain grammatical relations of words in English passages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 オリエンテーション

第2回 Lesson 1 George Orwell, Animal Farm

第3回 Lesson 2 Elizabeth Kübler-Ross, On Death and Dying

第4回 Lesson 3 O. Henry, A Retrieved Reformation

第5回 Lesson 4 George Gissing, The Private Papers of Henry Ryecroft

第6回 Lesson 5 Ernest Hemingway, The Old Man and the Sea

第7回 Lesson 6 Rachel Carson, Silent Spring

第8回 Lesson 7 William Wilkie Collins, The Family Secret

第9回 Lesson 8 Henry David Thoreau, Walden

第10回 Lesson 9 William Somerset Maugham, The Summing Up / A Writer's Notebook

第11回 Lesson 10 Arthur Waley, The Tale of Genji

第12回 Lesson 11 William Henry Davies, The Autobiography of a Super-Tramp

第13回 Lesson 12 Winston Churchill, My Early Life

第14回 Lesson 13 William James The Varieties of Religious Experience

第15回 まとめと期末試験

8. 成績評価方法：

授業への参加（50%）、期末試験（50%）

9. 教科書および参考書：

葉袋善郎編著 『名文で養う英語精読力』 研究社

10. 授業時間外学習：

必ず予習をすること。また、復習をして知識の定着を図ること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：英語演習／ Seminar in Practical English

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：三枝和彦（非常勤講師）

講義コード：LB42403, 科目ナンバリング：LHM-ENG201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：英文読解演習（2）

2. Course Title (授業題目)：Seminar in reading skills in English (2)

3. 授業の目的と概要：

英文を正確に読み、理解することができるようになるために、イギリスの物理学者で小説家であった C. P. Snow (1905-80) が 1959 年に行った講演 “The two cultures” と関連の文書を精読する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course aims to train students to read English passages correctly through reading intensively a lecture “The two cultures” delivered by C. P. Snow (1905-80), an English physicist and writer, and other articles associated with it.

5. 学習の到達目標：

- (1) 英文を正確に日本語に訳すことができるようになる。
- (2) 読んだ英文を要約することができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

1. Students will be able to translate English passages into Japanese correctly.
2. Students will be able to make a summary of what they read.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 “The two cultures” (1)
- 第3回 “The two cultures” (2)
- 第4回 “The two cultures” (3)
- 第5回 “The two cultures” (4)
- 第6回 “The two cultures” (5)
- 第7回 “Intellectuals as natural Luddites”
- 第8回 “The Scientific Revolution” (1)
- 第9回 “The Scientific Revolution” (2)
- 第10回 “The rich and the poor” (1)
- 第11回 “The rich and the poor” (2)
- 第12回 “The two cultures: a second look” (1)
- 第13回 “The two cultures: a second look” (2)
- 第14回 “The two cultures: a second look” (3)
- 第15回 “The two cultures: a second look” (4)

8. 成績評価方法：

授業への参加 (40%)、提出課題 (60%)

9. 教科書および参考書：

授業で扱うテキストは配布する。

10. 授業時間外学習：

必ず予習をすること。また、復習をして知識の定着を図ること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

12. その他：

科目名：高等英文解釈法／ Advanced English for Intensive Reading

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：鈴木 亨（非常勤講師）

講義コード：LB35208, 科目ナンバリング：LHM-ENG202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：英文解釈の技法

2. Course Title (授業題目) : Reading Skills in English

3. 授業の目的と概要：

様々なスタイルの英文テキスト（小説、エッセイ、評論、映画脚本、歌詞、雑誌記事など）を素材に、実践的な英語の読解力を養成する。文及びパラグラフにおける構造的な特徴に注意して、正確な読解に取り組むことが求められる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course exposes students to various types of reading materials in English such as novels, articles, essays, movie scripts, and lyrics to broaden their reading experiences with advanced vocabulary and genre-specific characteristics. Students are required to read texts with careful attention to structural aspects of both sentences and paragraphs.

5. 学習の到達目標：

文章の構成における論理的かつ構造的な特徴をきちんと把握することにより、様々な英文スタイルの特性に応じて、必要で正確な読解ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course is designed to develop reading skills to understand various types of texts written in English. Such reading skills will require a proper understanding of logical and structural aspects of the text at both the sentence level and paragraph level

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. Judy Moody Gets Famous
3. Akeelah and the Bee
4. The Guardian article on Greta Thunberg
5. How Pleasure Works (1)
6. How Pleasure Works (2)
7. How Pleasure Works (3)
8. State of the Union
9. What I Wish I Knew When I Was 20
10. Never Let Me Go (1)
11. Never Let Me Go (2)
12. Song Lyrics
13. Reclaiming Conversation (1)
14. Reclaiming Conversation (2)
15. 学期末試験と解説

8. 成績評価方法：

学期末試験および学期中に提出してもらう課題（学期中に3回、内容は適宜指示する）に基づいて、授業内容の理解度を総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

使用するテキストはあらかじめ配布する。

10. 授業時間外学習：

テキストを読んで、その内容についての質疑応答や議論に備える。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

辞書を持参すること。

科目名：高等英文解釈法／ Advanced English for Intensive Reading

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：鈴木 亨（非常勤講師）

講義コード：LB45206, 科目ナンバリング：LHM-ENG202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：英文解釈の技法

2. Course Title (授業題目) : Reading Skills in English

3. 授業の目的と概要：

様々なスタイルの英文テキスト（小説、エッセイ、評論、映画脚本、歌詞、雑誌記事など）を素材に、実践的な英語の読解力を養成する。文及びパラグラフにおける構造的な特徴に注意して、正確な読解に取り組むことが求められる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course exposes students to various types of reading materials in English such as novels, articles, essays, movie scripts, and lyrics to broaden their reading experiences with advanced vocabulary and genre-specific characteristics. Students are required to read texts with careful attention to structural aspects of both sentences and paragraphs.

5. 学習の到達目標：

文章の構成における論理的かつ構造的な特徴をきちんと把握することにより、様々な英文スタイルの特性に応じて、必要で正確な読解ができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

This course is designed to develop reading skills to understand various types of texts written in English. Such reading skills will require a proper understanding of logical and structural aspects of the text at both the sentence level and paragraph level

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. Thinking about Thinking
3. Olive Kitteridge (1)
4. Olive Kitteridge (2)
5. The Fall of Language in the Age of English (1)
6. The Fall of Language in the Age of English (2)
7. 11/22/63 (1)
8. 11/22/63 (2)
9. Before Sunrise (1)
10. Before Sunrise (2)
11. Song Lyrics
12. What Money Can't Buy (1)
13. What Money Can't Buy (2)
14. What Money Can't Buy (3)
15. 学期末試験と解説

8. 成績評価方法：

学期末試験および学期中に提出してもらう課題（学期中に3回、内容は適宜指示する）に基づいて、授業内容の理解度を総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

使用するテキストはあらかじめ配布する。

10. 授業時間外学習：

テキストを読んで、その内容についての質疑応答や議論に備える。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

辞書を持参すること。

科目名：英語論文作成法Ⅰ／ Creative Writing I

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：3, 単位数：2

担当教員：マックス・フィリップス（非常勤講師）

講義コード：LB33207, 科目ナンバリング：LHM-ENG203E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：Academic Writing I

2. Course Title (授業題目)：Academic Writing I

3. 授業の目的と概要：

This course is an introduction to the academic writing process. Students will learn: a) correct format for writing essays, b) organization for different essay types, c) strategies for: pre-writing, revising and proofreading, and improving the readability of their writing and d) correct sentence and paragraph structures that meets the expectations of their target audience.

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

Students will learn that because English writing is a process, not a product, organizational expectations must be met. The course helps students meet those expectations by teaching how to logically organize writing.

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1) Course Introduction; Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules
- 2) Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies
- 3) Basic Sentence Structure; Parallelism Rules
- 4) Writing an Outline; Basic Paragraph Structure
- 5) Basic Essay Structure
- 6) Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading
- 7) Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment
- 8) Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment
- 9) Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1 - Compare/Contrast
- 10) Organization 2 - Chronological Order
- 11) Organization 3 - Cause/Effect
- 12) Workshop 2 (E2 one-on-one)
- 13) Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language
- 14) Workshop 3
- 15) Semester Exam

8. 成績評価方法：

Final grade to be determined by: homework, score earned on submitted essays, and workshop participation.

9. 教科書および参考書：

Course syllabus based on "Discoveries in Academic Writing," by Barbara Harris Leonhard and "Teaching Academic Writing" by Eli Hinkel.

10. 授業時間外学習：

Attendance is mandatory for all classes. You will be automatically expelled if you have more than 2 unexcused absences. No auditors permitted.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：英語論文作成法Ⅱ／ Creative WritingⅡ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：マックス・フィリップス（非常勤講師）

講義コード：LB43205, 科目ナンバリング：LHM-ENG203E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：Academic Writing II

2. Course Title (授業題目)：Academic Writing II

3. 授業の目的と概要：

This course is a continuation of AWI, therefore, the prerequisite for entering AWII is satisfactory completion of AWI. (Requests for a waiver must be made to the professor prior to admission to the course.) Student will study the research process and how to organize research into a cohesive, logically organized paper, with a special focus on proper format and citation of source material.

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

Students will do original research and write a fully documented research paper.

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1) Course Introduction; The Research Process
- 2) Choosing a Topic; Identifying Potential Resources
- 3) Gathering Source Material - Evaluating Sources
- 4) Note-Taking
- 5) Using the Internet for Research
- 6) Considering Organization
- 7) How to Organize Notes / Write Outline
- 8) Workshop 1 (Outline - rough draft)
- 9) Integrating Source Material; First Draft Writing
- 10) Understanding Citations; Documenting Sources In-text
- 11) Paper Format; Documenting Sources Post-text
- 12) Workshop 2 (rough draft of main body)
- 13) Writing Introduction and Conclusion for Research Papers
- 14) Writing Workshop 3 (rough draft of paper)
- 15) Abstract Writing"

8. 成績評価方法：

Final grade to be determined by: research paper, and workshop participation.

9. 教科書および参考書：

Course syllabus based, in part, on: MLA Style Manual and Guide to Scholarly Publishing 3rd Edition.

10. 授業時間外学習：

Attendance is mandatory for all classes. You will be automatically expelled from the course if you have more than 2 unexcused absences. No auditors.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：今井誠二（非常勤講師）

講義コード：LB31505, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：古典ギリシャ語入門（1）

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Ancient Greek (1)

3. 授業の目的と概要：

古典ギリシャ語のアルファベットの学習から始めて、名詞、形容詞、動詞等の必要最小限の文法事項を習得する。基本的には教科書に沿って進めていくが、適宜順序を変える。重要な文法事項については、資料などを補いつつ解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This basic course in the ancient Greek covers the essential elements of language, starting with alphabet and parts of speech (nouns, adjectives, verbs, etc.). The course is textbook-based, but it will not necessarily follow the chapter order in a linear way. Additional materials will be used to elaborate on the most salient points.

5. 学習の到達目標：

古典ギリシア語の文法の基礎を習得し、簡単な文章を訳せるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

By the end of the course, students will have sufficient knowledge of basic ancient Greek grammar to be able to translate simple sentences.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

文字と発音、アクセント

第1・第2 変化名詞及び形容詞、定冠詞

ω 動詞：直説法能動相現在及び未来

ω 動詞：直説法能動相未完了過去及びアオリスト、不定詞を用いた間接話法

ω 動詞：直説法能動相第2アオリスト、結果文、時の表現

前接辞と後接辞、疑問代名詞と不定代名詞、動詞 ε ι μ ι と φ η μ ι、所有の与格

第3 変化名詞：子音幹、限定の対格及び与格

第3 変化名詞、母音融合を行う第1・第2 変化形容詞

第3 変化名詞：母音幹、関係代名詞

指示代名詞、強意代名詞 α υ τ ο ς

形容詞および副詞の比較、η δ ι ω ν の変化

母音融合動詞

流音・鼻音幹動詞の未来、人称代名詞

-υ ς -ε ι α -υ 型および -η ς -ε ς 型の形容詞

π α ς, μ ε γ α ς, π ο λ υ ς の変化

μ ι 動詞：ι σ τ η μ ι と δ ι δ ω μ ι の直接法能動相現在・未完了過去・アオリスト

μ ι 動詞：τ ι θ η μ ι, ι η μ ι, ε ι μ ι, δ ε κ ν υ μ ι

8. 成績評価方法：

出席 60%、毎回の授業の課題達成度 40%

9. 教科書および参考書：

水谷智洋著『古典ギリシャ語初歩』岩波書店 1990 年発行、3500 円+税

10. 授業時間外学習：

語形変化を何度も書いて復習し、仕組みを理解すること。定期的に簡単な書き取りテストを行って復習がなされているかを点検する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：今井誠二（非常勤講師）

講義コード：LB41505, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：古典ギリシャ語入門（2）

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Ancient Greek (2)

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、古典ギリシャ語の文法の初歩の学びを深める。基本的には教科書に沿って進めていくが、適宜順序を変える。重要な文法事項については資料を追加して解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

As a continuation of the previous course, this course will allow students expand their basic knowledge of the ancient Greek grammar. The course is textbook-based, but it will not necessarily follow the chapter order in a linear way. Additional materials will be used to elaborate on the most salient points.

5. 学習の到達目標：

古典ギリシア語の文法の基礎を習得し、簡単な文章を訳せるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

By the end of the course, students will have sufficient knowledge of basic ancient Greek grammar to be able to translate simple sentences.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

ω 動詞の能動相現在・未来・第2アオリストの分詞、分詞の用法

ω 動詞の能動相アオリストの分詞、μ ι 動詞の能動相現在および第2アオリストの分詞

接続法能動相現在およびアオリスト、主文における接続法の用法、接続法を用いた条件文

希求法能動相現在・未来・アオリスト、主文における希求法の用法、目的文

希求法を用いた条件文、ο τ ι, ω ς によって導入される間接話法、話法転換時の動詞の法の変化

直接法中・受動相現在、直接法中・受動相未来、能動相欠如動詞、危惧・恐怖を表す文

直接法中・受動相未完了過去、直接法中・受動相第2アオリスト、再帰代名詞、所有代名詞、配慮・努力を表す文

直接法中・受動相アオリスト、事実と反する仮定の条件文、過去の仮定を表す文

接続法中・受動相現在、接続法中・受動相アオリスト、ε ω ς, π ρ ι ν の用法

希求法中・受動相現在、希求法中・受動相アオリスト・未来

受動相アオリストおよび未来、行為者を表す υ π ο + 属格、手段・方法の与格

能動相完了・過去完了・未来完了

中・受動相完了、過去完了、未来完了、行為者の与格

命令法：ω 動詞

命令法：μ ι 動詞

μ ι 動詞型の変化をす第2アオリスト、動形容詞、動詞の主要部分

数詞

8. 成績評価方法：

出席 60%、毎回の授業の課題達成度 40%

9. 教科書および参考書：

水谷智洋著『古典ギリシャ語初歩』岩波書店 1990 年発行、3500 円+税

10. 授業時間外学習：

語形変化を何度も書いて復習し、仕組みを理解すること。定期的に簡単な書き取りテストを行って復習がなされているかを点検する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：ギリシャ語 / Greek

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：嶺岸佑亮（非常勤講師）

講義コード：LB31405, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ホメロス『オデュッセイア』第 1 巻演習

2. Course Title (授業題目)：Seminar of the 1st Book of Homer's Odyssey

3. 授業の目的と概要：

ホメロスの『オデュッセイア』は、古代ギリシア文学最古のテキストの一つです。この作品は、古代ギリシア人のものの見方や文化に対して決定的な影響を与えただけでなく、近現代に至るまでヨーロッパ世界に対して大きな影響を与え続けています。本授業では、その最初の巻をギリシア語原典で読解します。受講者には、各回ごとに数行ずつ日本語に訳出してもらいます。その作業を通じて、ギリシア語の読解力を身に付けるとともに、西欧文化の源泉に直に触れることで文学、歴史、哲学等の人文学に対してより幅広い視座を獲得することを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Homer's Odyssey is one of the oldest text in der Greek literature. This epic had not only definitive influence on Greeks' view of things and their culture, but has so great influence on the Western civilization up to modern times. In this seminar we are going to read the first Book of this Homeric great epic in its original. Students are expected to translate few verses from Greek into Japanese. Through that work we aim to gain the ability to read Greek text by oneself, and to gain the wide point of view to human science such as literature, history and philosophy by the direct contact with the origin of the Western civilization.

5. 学習の到達目標：

- ・ホメロスの叙事詩を自力で訳すことが出来るようになる
- ・叙事詩特有の語形変化になれ、正しく分析することが出来るようになる
- ・辞書・文法書を活用することが出来るようになる

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- ・We aim to gain the ability to translate Homer's epic into Japanese by oneself
- ・We aim to get accustomed to the special conjugation and declension of the epic and so to be able to analyse correctly

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- ・第 1 回：イントロダクション（演習の内容と方法、ホメロスの叙事詩について）
- ・第 2 回：『オデュッセイア』第 1 巻読解 1～30 行
- ・第 3 回：『オデュッセイア』第 1 巻読解 31～60 行
- ・第 4 回：『オデュッセイア』第 1 巻読解 61～90 行
- ・第 5 回：『オデュッセイア』第 1 巻読解 91～120 行
- ・第 6 回：『オデュッセイア』第 1 巻読解 121～150 行
- ・第 7 回：『オデュッセイア』第 1 巻読解 150～180 行
- ・第 8 回：『オデュッセイア』第 1 巻読解 181～210 行
- ・第 9 回：『オデュッセイア』第 1 巻読解 210～250 行
- ・第 10 回：『オデュッセイア』第 1 巻読解 251～290 行
- ・第 11 回：『オデュッセイア』第 1 巻読解 291～330 行
- ・第 12 回：『オデュッセイア』第 1 巻読解 331～370 行
- ・第 13 回：『オデュッセイア』第 1 巻読解 371～410 行
- ・第 14 回：『オデュッセイア』第 1 巻読解 411～最後
- ・第 15 回：まとめ

8. 成績評価方法：

出席および平常点（毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加）

9. 教科書および参考書：

テキストは講師がコピーを配布します。辞書は、Lidelle and Scott's Greel-English Lexicon, Oxford の abridged edition を使用します。[Text will be prepared by lector. We use abridged edition of Lidelle and Scott's Greel-English Lexicon, Oxford]

10. 授業時間外学習：

各回の予習として 5～15 行程度の予習が必要です [Students are required to prepare 5 to 15 verses for each class]

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：嶺岸佑亮（非常勤講師）

講義コード：LB41408, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ホメロス『オデュッセイア』第 2 巻演習

2. Course Title (授業題目)：Seminar of the 2nd Book of Homer's Odyssey

3. 授業の目的と概要：

ホメロスの『オデュッセイア』は、古代ギリシア文学最古のテキストの一つです。この作品は、古代ギリシア人のものの見方や文化に対して決定的な影響を与えただけでなく、近現代に至るまでヨーロッパ世界に対して大きな影響を与え続けています。本授業では、その第 2 巻をギリシア語原典で読解します。受講者には、各回ごとに数行ずつ日本語に訳出してもらいます。その作業を通じて、ギリシア語の読解力を身に付けるとともに、西欧文化の源泉に直に触れることで文学、歴史、哲学等の人文学に対してより幅広い視座を獲得することを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Homer's Odyssey is one of the oldest text in der Greek literature. This epic had not only definitive influence on Greeks' view of things and their culture, but has so great influence on the Western civilization up to modern times. In this seminar we are going to read the second Book of this Homeric great epic in its original. Students are expected to translate few verses from Greek into Japanese. Through that work we aim to gain the ability to read Greek text by oneself, and to gain the wide point of view to human science such as literature, history and philosophy by the direct contact with the origin of the Western civilization.

5. 学習の到達目標：

- ・ホメロスの叙事詩を自力で訳すことが出来るようになる
- ・叙事詩特有の語形変化になれ、正しく分析することが出来るようになる
- ・辞書・文法書を活用することが出来るようになる

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- ・We aim to gain the ability to translate Homer's epic into Japanese by oneself
- ・We aim to get accustomed to the special conjugation and declension of the epic and so to be able to analyse correctly

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- ・第 1 回：イントロダクション（演習の内容と方法、ホメロスの叙事詩について）
- ・第 2 回：『オデュッセイア』第 2 巻読解 1～30 行
- ・第 3 回：『オデュッセイア』第 2 巻読解 31～60 行
- ・第 4 回：『オデュッセイア』第 2 巻読解 61～90 行
- ・第 5 回：『オデュッセイア』第 2 巻読解 91～120 行
- ・第 6 回：『オデュッセイア』第 2 巻読解 121～150 行
- ・第 7 回：『オデュッセイア』第 2 巻読解 150～180 行
- ・第 8 回：『オデュッセイア』第 2 巻読解 181～210 行
- ・第 9 回：『オデュッセイア』第 2 巻読解 210～250 行
- ・第 10 回：『オデュッセイア』第 2 巻読解 251～290 行
- ・第 11 回：『オデュッセイア』第 2 巻読解 291～330 行
- ・第 12 回：『オデュッセイア』第 2 巻読解 331～370 行
- ・第 13 回：『オデュッセイア』第 2 巻読解 371～410 行
- ・第 14 回：『オデュッセイア』第 2 巻読解 411～最後
- ・第 15 回：まとめ

8. 成績評価方法：

出席および平常点（毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加）

9. 教科書および参考書：

テキストは講師がコピーを配布します。辞書は、Lidelle and Scott's Greel-English Lexicon, Oxford の abridged edition を使用します。[Text will be prepared by lector. We use abridged edition of Lidelle and Scott's Greel-English Lexicon, Oxford]

10. 授業時間外学習：

各回の予習として 5～15 行程度の予習が必要です [Students are required to prepare 5 to 15 verses for each class]

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：宮崎正美（非常勤講師）

講義コード：LB35305, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ラテン語文法入門・基礎文法

2. Course Title (授業題目)：Introductory Course of Latin Grammar

3. 授業の目的と概要：

この授業では、受講生が、ラテン語の文法の全体像をつかんだ上で、文法の基礎的事項を習得することを目的とする。授業は、学ぶ上での重要な点や注意すべき点を指摘しながら解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides participants to easily recognize an entire structure of Latin grammar and fundamental knowledge. It also provides explanations of important points on learning and points where you should be careful about.

5. 学習の到達目標：

ラテン語文法理解の基礎となる事項（動詞・名詞・形容詞・代名詞その他）を修得し、どのような特徴をもった言語であるかを学ぶこと。

さらに格言など簡単なラテン語文章を読解できるようになることである。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

At the end of the course, participants are expected to acquire some part of Latin speech (verbs, nouns, adjectives, pronouns) as bases, and to learn the characteristics and the basic concepts of Latin.

It also enhances basic reading skills and understand

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は講義を中心に進める。内容および進度予定は以下のとおりであるが、若干内容を変更する場合がある。

第1回 インTRODククション

第2回 アルファベット、発音、音節・アクセント規則

第3回 動詞の基礎 (1) 人称語尾、4活用型とその判別法、sum 動詞

第4回 動詞の基礎 (2) 現在幹、命令法

第5回 名詞の基礎 (1) 性・数・格、5変化型とその判別法、第1変化

第6回 名詞の基礎 (2) 第2変化、第3変化①i 幹

第7回 名詞の基礎 (3) 第3変化②子音幹、前置詞（対格、奪格）

第8回 名詞の基礎 (4) 属格の用法、与格の用法、第4変化、第5変化

第9回 形容詞 (1) 性・数・格の一致、第1・第2変化型

第10回 形容詞 (2) 第3変化型

第11回 形容詞 (3) 比較級、最上級、副詞、数詞

第12回 代名詞 (1) 代名詞の概観、人称代名詞・再帰代名詞、所有代名詞・形容詞

第13回 代名詞 (2) 指示代名詞・形容詞①

第14回 代名詞 (3) 指示代名詞・形容詞②、限定代名詞・形容詞、強意代名詞・形容詞

第15回 代名詞 (4) 関係代名詞・形容詞、疑問代名詞・形容詞、その他の代名詞・形容詞

8. 成績評価方法：

出席日数が総授業数の2/3以上の学生が評価の対象になります。

出席状況（3分の2の出席を単位取得の最低条件とし、残り3分の1を全体の40%に換算）、レポート・試験（60%）、に基づいて評価する。（ただし比重は平均点、偏り、状況等により調整することがある。）

9. 教科書および参考書：

参考書：

羅和辞典（改訂版） 水谷智洋編 研究社 2009 ISBN/ISSN:9784767490250

10. 授業時間外学習：

指定したテキスト（プリント）の該当箇所を読んで、予習しておくこと。

テキストの練習問題を利用して、授業の内容を理解し、例文の文法解析をしておく

[Students are required to prepare for the assigned part of the handouts. They also required to review each class using handouts and to analyze example sentences grammatical word b

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

E-mail：paul-m@tohoku.ac.jp(◎を@に置き換えてください)

この講義は日本語で提供されます。

辞書は参考書としているが、受講のためには必要と考えてほしい。

教科書としてプリントを配付する。

履修後続いてラテン語 II の履修が望まれる。

[This course will be taught in Japanese. It is necessary for students to use a Latin dictionary in this class.

No textbooks but references (handouts) are provided.

It is preferable to attend "Latin grammar II" sequentially to cover basic Latin grammar.]

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：嶺岸佑亮（非常勤講師）

講義コード：LB45405, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ラテン語文法

2. Course Title (授業題目) : Latin Grammar

3. 授業の目的と概要：

この授業では、前期に続きラテン語の基礎の習得を目指します。また基礎文法を一通り学ぶことを通じて、読解力を身に付けることも目指します。進度に応じて、古代・中世・近代のさまざまな文章を紹介します。それにより、ラテン語が西欧文化に対して現代に至るまで極めて大きな影響を与え続けていることをうかがい知ることが出来ます。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course we aim to gain the basic knowledge of Latin. We aim at the same time to acquire the ability to read Latin texts by learning the basic of Latin grammar. According to the degree of advancement students have opportunity to come into contact with actual Latin texts of antiquity, the Middle Ages and modern times. Students will find through the course that Latin has so great influence on the Western culture up to our time.

5. 学習の到達目標：

- ・名詞・形容詞・動詞等の複雑な語形変化を習得する
- ・ラテン語特有の文章構造・表現に触れ、その仕組みを理解する
- ・簡単な文章を理解する程度の読解力を身に付ける

6. Learning Goals (学修の到達目標)

- ・ We aim to learn the complex conjugation and declension of Latin.
- ・ We aim to gain experience of typical structure and expression of Latin and to learn how the Latin sentences

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- ・ 第 1 回：動詞 (1) 未完了過去
- ・ 第 2 回：動詞 (2) 未来
- ・ 第 3 回：動詞 (3) 現在完了
- ・ 第 4 回：動詞 (4) 過去完了、未来完了
- ・ 第 5 回：動詞 (5) 受動形 (現在、未完了過去、未来)
- ・ 第 6 回：動詞 (6) 受動形 (現在完了、過去完了、未来完了)
- ・ 第 7 回：動詞 (7) 形式受動態動詞
- ・ 第 8 回：分詞 (1) 現在分詞、完了分詞
- ・ 第 9 回：分詞 (2) 目的分詞、未来分詞
- ・ 第 10 回：動名詞・動形容詞
- ・ 第 11 回：接続法 (1) 現在
- ・ 第 12 回：接続法 (2) 未完了過去
- ・ 第 13 回：接続法 (3) 現在完了・過去完了
- ・ 第 14 回：接続法 (4) 目的文・結果文・条件文
- ・ 第 15 回：間接話法

8. 成績評価方法：

- ・出席と平常点（訳読、授業への積極的な参加や貢献など）：70% ・小レポート：30%

9. 教科書および参考書：

- ・教科書：『しっかり学ぶ初級ラテン語』、山下太郎著、ベレ出版、2013年、ISBN：978-4-86064-366-9

10. 授業時間外学習：

毎回練習問題を配布しますので予習するようにしてください [Students are expected to prepare exercises for each class]

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：荻原理（教授）

講義コード：LB32306, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ラテン語原典講読

2. Course Title (授業題目)：Advanced Latin

3. 授業の目的と概要：

語学上比較的やさしいラテン語の文章を、文法上の解説を受けながら、ゆっくり丁寧に読んでいきます（テキストの音読、語形変化の練習にも時間を取ります）。それを通じて、文法事項の確認をし、また、ラテン語に馴れていきます。（わからない点について積極的に質問してください。）

読むテキストは、参加者の希望・関心を訊きながら、教員が選定します。ジャンルの異なる複数のテキストを並行して読むことになるかもしれません。（参考までに、前年度にはカエサル『ガリア戦記』、デカルト『省察』のごく一部を読みまし。前々年度にはルター「95 か条の提題」、カント「可感界と可知界の形式と諸原理」、ローマ法大全の「法学提要」のごく一部を、その前年度にはスピノザ『エチカ』、フォーテスキュー『イングランド法の礼賛について』のごく一部を、さらにその前年度にはデカルト『省察』、「カルミナ・ブラーナ」、オウィディウス『変身物語』、トマス・アキナス『神学大全』のごく一部を読みまし。）

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

We shall be reading a few linguistically easier Latin texts slowly, with the instructor providing detailed grammatical explanation. On such occasion, we shall practice inflections and declensions. Thereby we shall get used to the language, especially grammar. The instructor will take into consideration the attendants' interests when deciding upon texts.

5. 学習の到達目標：

授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

To become able to comprehend the meaning of, and grammatically explain, the texts that we shall have read

7. 授業の内容・方法と進度予定：

初回はイントロ。以降、テキストを丁寧に読んでいく。

最初の数回分のテキスト（テキスト 1）は教員が選ぶが、参加者の関心に応じてさらにテキストを選定していく（テキスト 2 以降）。

第 1 回：イントロ

第 2 回：テキスト 1 数行 たとえば 1-3 行であろうか

第 3 回：テキスト 1 次の数行 たとえば 4 行-7 行途中でもであろうか

第 4 回：テキスト 1 その次の数行 たとえば 7 行途中-11 行でもであろうか

第 5 回：テキスト 1 さらにその次の数行 たとえば 11 行-18 行でもであろうか

第 6 回：テキスト 1 18-21 行 ならびに テキスト 2 1-3 行 でもであろうか

第 7 回：テキスト 1 22 行-27 行 ならびに テキスト 2 4-6 行 でもであろうか

第 8 回：テキスト 2 7-15 行 でもであろうか

第 9 回：テキスト 2 16-23 行 でもであろうか

第 10 回：テキスト 2 24-27 行 ならびに テキスト 3 1-4 行 でもであろうか

第 11 回：テキスト 2 28-32 行 ならびに テキスト 3 5-11 行 でもであろうか

第 12 回：テキスト 2 33-36 行 ならびに テキスト 3 12-17 行 でもであろうか

第 13 回：テキスト 3 18-21 行 ならびに テキスト 4 1-4 行 でもであろうか

第 14 回：テキスト 3 22-27 行 ならびに テキスト 4 5-10 行 でもであろうか

第 15 回：テキスト 4 11-22 行 でもであろうか

8. 成績評価方法：

出席：60% 授業時のパフォーマンス：40%

（試験は行わず、レポート提出もありません。）

9. 教科書および参考書：

松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』（南江堂、1968 年初版、改訂 1979 年）を各自入手し、授業に持参して下さい。読むテキストはプリントを配布します。

10. 授業時間外学習：

復習（とくに、意味を捉えながらの音読）。次回読む予定の箇所の下調べ（できる範囲で）。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：ラテン語初等文法を一通り学んでいることが参加の条件です（覚え残しが多少あっても構いません）。

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

Semester：4, 単位数：2

担当教員：荻原理（教授）

講義コード：LB42306, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ラテン語原典講読

2. Course Title (授業題目)：Advanced Latin

3. 授業の目的と概要：

語学上比較的やさしいラテン語の文章を、文法上の解説を受けながら、ゆっくり丁寧に読んでいきます（テキストの音読、語形変化の練習にも時間を取ります）。それを通じて、文法事項の確認をし、また、ラテン語に馴れていきます。（わからない点について積極的に質問してください。）

読むテキストは、参加者の希望・関心を訊きながら、教員が選定します。ジャンルの異なる複数のテキストを並行して読むことになるかもしれません。（参考までに、前年度にはカエサル『ガリア戦記』、デカルト『省察』のごく一部を読みまし。前々年度にはルター「95 か条の提題」、カント「可感界と可知界の形式と諸原理」、ローマ法大全の「法学提要」のごく一部を、その前年度にはスピノザ『エチカ』、フォーテスキュー『イングランド法の礼賛について』のごく一部を、さらにその前年度にはデカルト『省察』、「カルミナ・ブラーナ」、オウィディウス『変身物語』、トマス・アキナス『神学大全』のごく一部を読みまし。）

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

We shall be reading a few linguistically easier Latin texts slowly, with the instructor providing detailed grammatical explanation. On such occasion, we shall practice inflections and declensions. Thereby we shall get used to the language, especially grammar. The instructor will take into consideration the attendants' interests when deciding upon texts.

5. 学習の到達目標：

授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

To become able to comprehend the meaning of, and grammatically explain, the texts that we shall have read

7. 授業の内容・方法と進度予定：

初回はイントロ。以降、テキストを丁寧に読んでいく。

最初の数回分のテキスト（テキスト 1）は教員が選ぶが、参加者の関心に応じてさらにテキストを選定していく（テキスト 2 以降）。

第 1 回：イントロ

第 2 回：テキスト 1 数行 たとえば 1-3 行であろうか

第 3 回：テキスト 1 次の数行 たとえば 4 行-7 行途中でもであろうか

第 4 回：テキスト 1 その次の数行 たとえば 7 行途中-11 行でもであろうか

第 5 回：テキスト 1 さらにその次の数行 たとえば 11 行-18 行でもであろうか

第 6 回：テキスト 1 18-21 行 ならびに テキスト 2 1-3 行 でもであろうか

第 7 回：テキスト 1 22 行-27 行 ならびに テキスト 2 4-6 行 でもであろうか

第 8 回：テキスト 2 7-15 行 でもであろうか

第 9 回：テキスト 2 16-23 行 でもであろうか

第 10 回：テキスト 2 24-27 行 ならびに テキスト 3 1-4 行 でもであろうか

第 11 回：テキスト 2 28-32 行 ならびに テキスト 3 5-11 行 でもであろうか

第 12 回：テキスト 2 33-36 行 ならびに テキスト 3 12-17 行 でもであろうか

第 13 回：テキスト 3 18-21 行 ならびに テキスト 4 1-4 行 でもであろうか

第 14 回：テキスト 3 22-27 行 ならびに テキスト 4 5-10 行 でもであろうか

第 15 回：テキスト 4 11-22 行 でもであろうか

8. 成績評価方法：

出席：60% 授業時のパフォーマンス：40%

（試験は行わず、レポート提出もありません。）

9. 教科書および参考書：

松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』（南江堂、1968 年初版、改訂 1979 年）を各自入手し、授業に持参して下さい。読むテキストはプリントを配布します。

10. 授業時間外学習：

復習（とくに、意味を捉えながらの音読）。次回読む予定の箇所の下調べ（できる範囲で）。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：ラテン語初等文法を一通り学んでいることが参加の条件です（覚え残しが多少あっても構いません）。

科目名：サンスクリット語／ Sanskrit

曜日・講時：前期 木曜日 3講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：笠松 直（非常勤講師）

講義コード：LB34304, 科目ナンバリング：LHM-OFL203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：サンスクリット語基礎演習

2. Course Title (授業題目)：Sanskrit (Introductory Seminar 1)

3. 授業の目的と概要：

ランマンの『サンスクリット読本』をテキストとして読解演習を行い、サンスクリット語の文法・語彙の理解を深める。テキストの語彙集・注記ばかりでなく、ホイットニーの文法書を適宜参照しながら読み進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This class aims to deepen understanding of Sanskrit grammar and vocabulary through reading texts in Lanman's A Sanskrit Reader. We will read as much as possible by referring to Whitney's Sanskrit Grammar as well as the textbook's glossary and explanatory notes.

5. 学習の到達目標：

平易なサンスクリット語の文章を訳せるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will be able to translate plain Sanskrit sentences.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション

2 『ナラ王物語』第1章 (ナラ王とダマヤンティーの生い立ち) 1-3

3 『ナラ王物語』第1章 4-6

4 『ナラ王物語』第1章 7-10

5 『ナラ王物語』第1章 11-14

6 『ナラ王物語』第1章 15-19

7 『ナラ王物語』第1章 20-25

8 『ナラ王物語』第1章 26-32

9 『ナラ王物語』第2章 (婿選びの御触れ) 1-7

10 『ナラ王物語』第2章 8-14

11 『ナラ王物語』第2章 15-21

12 『ナラ王物語』第2章 22-28

13 『ナラ王物語』第2章 29-30, (ナラ王とダマヤンティーの対話) 1-6

14 『ナラ王物語』第3章 7-14

15 『ナラ王物語』第3章 15-22

8. 成績評価方法：

予習 (40%), 授業内容の理解度 (60%)

9. 教科書および参考書：

C. R. Lanman, A Sanskrit Reader, W.D. Whitney, Sanskrit Grammar

10. 授業時間外学習：

個々の語形を文法的に解析したうえ、指定された部分を訳しておくこと。毎回の授業の復習に十分に時間をかけること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

サンスクリット初級の知識を有すること。4セメスターのサンスクリット語・サンスクリット語基礎演習 (2) と合せて受講するのが望ましい。

科目名：サンスクリット語／ Sanskrit

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：笠松 直（非常勤講師）

講義コード：LB44303, 科目ナンバリング：LHM-OFL203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：サンスクリット語基礎演習

2. Course Title (授業題目)：Sanskrit (Introductory Seminar 2)

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、ランマンの『サンスクリット読本』をテキストとして読解演習を行い、サンスクリット語の文法・語彙の理解を深める。テキストの語彙集・注記ばかりでなく、ホイットニーの文法書を適宜参照しながら読み進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This class, continued from “Sanskrit (Introductory Seminar 1)”, aims to deepen understanding of Sanskrit grammar and vocabulary through reading texts in Lanman’s A Sanskrit Reader. We will read as much as possible by referring to Whitney’s Sanskrit Grammar as well as the textbook’s glossary and explanatory notes.

5. 学習の到達目標：

平易なサンスクリット語の文章を訳せるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will be able to translate plain Sanskrit sentences.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション

2 『ナラ王物語』第3章23-25, 第4章(ナラ王とダマヤンティーの対話)1-5

3 『ナラ王物語』第4章6-13

4 『ナラ王物語』第4章14-22

5 『ナラ王物語』第4章23-31

6 『ナラ王物語』第5章(婿選びの儀式)1-8

7 『ナラ王物語』第5章9-18

8 『ナラ王物語』第5章19-27

9 『ナラ王物語』第5章28-36

10 『ナラ王物語』第5章37-46

11 『有益な教え(ヒトパーデーシャ)』イントロダクション, プロローグI

12 『有益な教え』プロローグII

13 『有益な教え』プロローグII

14 『有益な教え』「老いた虎と旅人」I

15 『有益な教え』「老いた虎と旅人」II

8. 成績評価方法：

予習(40%), 授業内容の理解度(60%)

9. 教科書および参考書：

C. R. Lanman, A Sanskrit Reader, W.D. Whitney, Sanskrit Grammar

10. 授業時間外学習：

個々の語形を文法的に解析したうえ、指定された部分を訳しておくこと。毎回の授業の復習に十分に時間をかけること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

サンスクリット初級の知識を有すること。4セメスターのサンスクリット語・サンスクリット語基礎演習(2)と合せて受講するのが望ましい。

科目名：中国語／ Chinese

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：チャン ペイルー (准教授)

講義コード：LB33208, 科目ナンバリング：LHM-CHN201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：中国語中級会話

2. Course Title (授業題目)：Intermediate Mandarin Chinese Conversation

3. 授業の目的と概要：

一年次で学習した中国語の発音と基礎文法をベースに、語彙量と使える表現を増やし、中級レベルの会話力を身につけることを目的とする。まず、発音練習を徹底的にし、中国語を話す自信をつける。そのうえ、日常生活の様々な場面を想定した会話文を使い、中国語らしい表現を体得し、中国語での発信力を磨く。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course is designed for those students who have already completed the learning at the beginner's level and acquired the basic knowledge of Mandarin Chinese pronunciation and grammar. The purpose of this course is to raise the speaking ability of the students to the intermediate level. First of all, a thorough practice of pronunciation will be provided to help students gain confidence in speaking Mandarin Chinese. Furthermore, daily conversation samples in various situations will be used for students to practice in order to become familiar with natural Mandarin Chinese expressions and be able to communicate in Mandarin Chinese.

5. 学習の到達目標：

簡単な日常会話を流暢に話し、積極的に中国語で意思疎通を図れるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will develop the ability to carry out basic daily conversations fluently and will be eager to communicate in Mandarin Chinese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>グループワークやペアワークで会話練習をする。

<進度予定>

第1回 ガイダンス、第1課の発音練習と本文

第2回 第1課の応用練習

第3回 第2課の発音練習と本文

第4回 第2課の応用練習

第5回 第3課の発音練習と本文

第6回 第3課の応用練習

第7回 第4課の発音練習と本文

第8回 第4課の応用練習

第9回 第5課の発音練習と本文

第10回 第5課の応用練習

第11回 第6課の発音練習と本文

第12回 第6課の応用練習

第13回 第7課の発音練習と本文

第14回 第7課の応用練習

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

平常点：60% (授業態度、小テスト、課題など)

期末試験：40%

9. 教科書および参考書：

<教科書> 『話してみたい 中国語スピーキング沙龍』、相原茂・蘇紅、朝日出版社、2014年

<参考書> 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 (新訂版)』、相原茂ら著、同学社、2016年

10. 授業時間外学習：

予習：新出語句を学習し、本文の意味を確認してから、録音を3回以上聞き、耳を慣らす。聞いた内容をそのまま口で繰り返す練習もしておく。

復習：学習した単語と表現をすらすら言えるまで練習する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

成績評価における平常点の割合が高いため、普段の授業時に積極的な授業態度が求められる。

科目名：中国語／ Chinese

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：チャン ペイルー (准教授)

講義コード：LB43206, 科目ナンバリング：LHM-CHN201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：中国語中級会話

2. Course Title (授業題目)：Intermediate Mandarin Chinese Conversation

3. 授業の目的と概要：

一年次で学習した中国語の発音と基礎文法をベースに、語彙量と使える表現を増やし、中級レベルの会話力を身につけることを目的とする。まず、発音練習を徹底的にし、中国語を話す自信をつける。そのうえ、日常生活の様々な場面を想定した会話文を使い、中国語らしい表現を体得し、中国語での発信力を磨く。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course is designed for those students who have already completed the learning at the beginner's level and acquired the basic knowledge of Mandarin Chinese pronunciation and grammar. The purpose of this course is to raise the speaking ability of the students to the intermediate level. First of all, a thorough practice of pronunciation will be provided to help students gain confidence in speaking Mandarin Chinese. Furthermore, daily conversation samples in various situations will be used for students to practice in order to become familiar with natural Mandarin Chinese expressions and be able to communicate in Mandarin Chinese.

5. 学習の到達目標：

簡単な日常会話を流暢に話し、積極的に中国語で意思疎通を図れるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will develop the ability to carry out basic daily conversations fluently and will be eager to communicate in Mandarin Chinese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>グループワークやペアワークで会話練習をする。

<進度予定>

第1回 ガイダンス、第8課の発音練習と本文

第2回 第8課の応用練習

第3回 第9課の発音練習と本文

第4回 第9課の応用練習

第5回 第10課の発音練習と本文

第6回 第10課の応用練習

第7回 第11課の発音練習と本文

第8回 第11課の応用練習

第9回 第12課の発音練習と本文

第10回 第12課の応用練習

第11回 第13課の発音練習と本文

第12回 第13課の応用練習

第13回 第14課の発音練習と本文

第14回 第14課の応用練習

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

平常点：60% (授業態度、小テスト、課題など)

期末試験：40%

9. 教科書および参考書：

<教科書> 『話してみたい 中国語スピーキング沙龍』、相原茂・蘇紅、朝日出版社、2014年

<参考書> 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 (新訂版)』、相原茂ら著、同学社、2016年

10. 授業時間外学習：

予習：新出語句を学習し、本文の意味を確認してから、録音を3回以上聞き、耳を慣らす。聞いた内容をそのまま口で繰り返す練習もしておく。

復習：学習した単語と表現をすらすら言えるまで練習する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

成績評価における平常点の割合が高いため、普段の授業時に積極的な授業態度が求められる。

科目名：朝鮮語／ Korean

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：権 来順（非常勤講師）

講義コード：LB33209, 科目ナンバリング：LHM-KOR201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：韓国語入門

2. Course Title (授業題目) : Korean for Beginners

3. 授業の目的と概要：

韓国語（ハングル）に関する全体像を身につけ、韓国語の読み書きができることをめざす。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

To be familiar with the overall concept of Hangeul, with the aim of being able to read and write Hangeul characters.

5. 学習の到達目標：

学習の入り口としてハングル文字の仕組みを理解し、韓国語への興味を持たせることを目的とする。特に日本語にない発音に重点を置き、正確な韓国語の発音を練習する。韓国の文化、風習などの視聴覚資料を使い、基本文法と会話を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

To understand the mechanism of Hangeul characters as an introduction to learning Korean, so as to draw interest in the Korean language. In particular, to focus on pronunciations not found in the Japanese language, and to practise accurate Korean pronunciation

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション：朝鮮半島の言語について
- 2 基本母音（単母音）と基本子音の学習
- 3 子音の激音・濃音、合成母音 11 文字の練習
- 4 一つ文字の終音、連音化、有声音化、流音化の学習
- 5 二つ文字の終音、激音化、濃音化、鼻音化の学習
- 6 日本語のハングル文字表記の練習
- 7 自己紹介の練習
- 8 断定の丁寧表現
- 9 動詞の丁寧表現と疑問形の表現
- 10 指示代名詞と所有の表現
- 11 位置関係の表現
- 12 漢字語数詞、日付、曜日などの表現
- 13 動詞の否定形
- 14 形容詞の丁寧表現
- 15 まとめと試験

8. 成績評価方法：

筆記試験、出席率、授業時の読み、書きなどの平常点

9. 教科書および参考書：

権来順 他『パルン韓国語』（朝日出版社）、参考資料のプリント配布

10. 授業時間外学習：

毎回の内容を復習すること

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：朝鮮語／ Korean

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

Semester：4, 単位数：2

担当教員：権 来順（非常勤講師）

講義コード：LB43207, 科目ナンバリング：LHM-KOR201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：韓国語初級

2. Course Title (授業題目) : Elementary Korean

3. 授業の目的と概要：

韓国語の読解力と簡単な生活会話をめざす。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

To be able to comprehend Korean text and carry out simple everyday conversation.

5. 学習の到達目標：

日常生活に必要な語彙や表現力を高め、コミュニケーション能力を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

To improve vocabulary and expressions necessary for everyday life, and to enhance communication skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション

2 現在形の用言活用Ⅰ（規則活用）

3 現在形の用言活用Ⅱ（規則活用）

4 現在形の用言活用（変則活用）

5 固有語数詞、時間、買い物、値段などの表現

6 過去形の用言活用Ⅰ（規則活用）

7 過去形の用言活用Ⅱ（規則活用）

8 過去形の用言活用（変則活用）

9 願望を表す表現

10 意志を表す表現

11 目的を表す表現

12 敬語表現

13 敬語表現

14 意向・意見・勧誘の表現

15 まとめと試験

8. 成績評価方法：

筆記試験、出席率、授業時の読み、書きなどの平常点

9. 教科書および参考書：

権来順 他『パルン韓国語』（朝日出版社）、参考資料のプリント配布

10. 授業時間外学習：

毎回の内容を復習すること

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ (准教授)

講義コード：LB34302, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：イタリア語初級（前期）

2. Course Title (授業題目)：Italian Language (Elementary Level)

3. 授業の目的と概要：

日常生活で使用される対話表現を題材に、イタリア語特有の発音・リズムや言い回しを身につけ、名詞の性と数、形容詞の変化、定冠詞と不定冠詞、所有形容詞、指示詞、直接法現在の規則動詞といった基礎文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて初歩的な疑問文や否定文をつくり、会話表現の練習を行なう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

By learning expressions used in everyday life, this course aims first of all to acquire typical Italian pronunciation, rhythm and fixed phrases. The students will learn basic grammatical rules concerning genders and numbers of nouns, forms of adjectives, determinative and indefinite articles, possessive adjectives, demonstrative terms and the indicative present form of regular verbs. At the same time, using the grammatical notions acquired, the students will do speaking exercises using interrogative pronouns and negative sentences.

5. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話や挨拶の表現ができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The course aims to acquire the first grammatical rules useful for speaking actively Italian. The students will be able to understand simple phrases based on subject, predicate, complement structures, and to engage easy everyday conversations or greet.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. コースの紹介。
2. 発音とアルファベット。
3. 定冠詞・不定冠詞・名詞。
4. 形容詞と挨拶。
5. Essere 不規則動詞の直接法現在形。
6. Avere 不規則動詞の直接法現在形。
7. -are 規則動詞の直接法現在形。
8. 丁寧な表現。
9. 数字と聞き取り練習。
10. 小テストと-ere の規則動詞の直接法現在形。
11. Fare 不規則動詞の直接法現在形と命令形。
12. 復習と聞き取り練習。
13. 疑問詞。
14. 小テストと復習。
15. 期末テストとまとめ。

8. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

9. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol. 1」。

10. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

辞書を必ず用意すること。詳細については授業初回に指示する。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ (准教授)

講義コード：LB44302, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：イタリア語初級（後期）

2. Course Title (授業題目)：Italian Language (Elementary Level)

3. 授業の目的と概要：

前期semesterに引き続き、日常生活で使用される会話表現を題材に、不規則動詞、助動詞、再帰動詞、過去形といった基礎的文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて、会話表現、作文の練習を行なう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In continuation with the previous semester, the students will learn new basic grammatical rules concerning irregular verbs, auxiliary verbs, reflexive verbs, past tense, as contained in model sentences and colloquial expressions often used in everyday circumstances. At the same time, using their grammatical acquisition, the students will do exercises of speaking and writing.

5. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話の表現ができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The course aims to acquire the first grammatical rules useful for speaking actively Italian. The students will be able to understand simple phrases based on subject, predicate, complement structures, and to engage easy everyday conversations.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. -ere 規則動詞の直接法現在形。
3. Bere 不規則動詞の直接法現在形と読解の練習。
4. Andare 不規則動詞の直接法現在形。
5. C'è と ci sono。
6. 聞き取り練習と復習。
7. 小テストと時刻。
8. -ire 規則動詞の直接法現在形その一。
9. 会話の練習と -ire 規則動詞の直接法現在形その二。
10. Mi piace の使い方。
11. Uscire 不規則動詞の直接法現在形と人称代名詞。
12. 再帰動詞。
13. Dovere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
14. 小テストと復習。
15. 期末テストとまとめ。

8. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

9. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol. 1」。

10. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

辞書を必ず用意すること。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ (准教授)

講義コード：LB34402, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：イタリア語中級（前期）

2. Course Title (授業題目)：Italian Language (Intermediate Level)

3. 授業の目的と概要：

これまでに学習した初級文法を復習しながら、引き続き実用イタリア語のための基礎文法を身につける。日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、命令法、半過去形、未来形、比較級と最上級などの中級文法の規則を習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

While brushing up on grammar learnt until now, the students will acquire new basic grammatical knowledge useful for practical Italian. The students will learn new rules concerning imperative, imperfect, future, comparative, superlative and so on, as contained in model sentences and colloquial expressions often used in everyday circumstances. At the same time, while training in conversations their grammatical acquisition, the students will improve their reading, translating and writing skills.

5. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる話法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course aims to acquire some basic grammatical knowledge useful for everyday Italian, to understand quite complex sentences including expressions and verb tenses different from the Japanese ones, and to become able to speak in a clear and understandab

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. Dov'è? C'è? の使い方。
3. Quanto costa? と会話の練習。
4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。
6. 読解の練習と復習。
7. 小テストと Stare 不規則動詞の直接法現在形。
8. 聞き取り練習と非人称動詞。
9. Volere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
10. 直接法近過去その一。
11. 直接法近過去その二。
12. 小テストと会話の練習。
13. 直接法近過去その三。
14. 代名詞と会話の練習。
15. 期末テストとまとめ。

8. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

9. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol. 2」。

10. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

辞書を必ず用意すること。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ (准教授)

講義コード：LB44401, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：イタリア語中級（後期）

2. Course Title (授業題目)：Italian Language (Intermediate Level)

3. 授業の目的と概要：

前期セメスターに引き続き、日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、関係代名詞、受動態、条件法、接続法などの中級文法の規則を一通り習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力をさらに発展させる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In continuation with the previous semester, the students will acquire new basic grammatical knowledge useful for practical Italian. The students will learn new rules concerning relative pronouns, passive, conditional, subjunctive and so on, as contained in model sentences and colloquial expressions often used in everyday circumstances. At the same time, while training in conversations their grammatical acquisition, the students will improve their reading, translating and writing skills.

5. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる話法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course aims to acquire some basic grammatical knowledge useful for everyday Italian, to understand quite complex sentences including expressions and verb tenses different from the Japanese ones, and to become able to speak in a clear and understandab

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. 不規則動詞の直接法近過去。
3. 聞き取りと会話の練習。
4. 読解の練習と相対最上級。
5. 小テストと代名詞。
6. 疑問詞。
7. 会話の練習と序数詞。
8. 部分補語。
9. 聞き取りと会話の練習。
10. 読解の練習と小テスト。
11. 人称代名詞。
12. 会話の練習。
13. 絶対最上級。
14. 会話の練習。
15. 期末テストとまとめ。

8. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

9. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol. 2」。

10. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

辞書を必ず用意すること。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ (准教授)

講義コード：LB33408, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：イタリア語上級 (前期)

2. Course Title (授業題目) : Italian Language (Advanced Level)

3. 授業の目的と概要：

この講義では、文法は学生の学習が不完全な部分を補う程度にとどめる。読解や場合によっては翻訳も行なえるように、日常的事物や本で使用されるような複雑な筋からなる文章の理解に向けた、イタリア語の高度な運用を目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, the lessons will focus on a high level Italian, aiming to understand everyday expressions and complex sentences used in written Italian, as they occur during reading and translation's exercises. Grammar will not exceed the level of a supplement, if necessary.

5. 学習の到達目標：

これまで学んできたイタリア語文法を用いて、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、イタリア文化についても学んでいく。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The course aims to improve the capacity of listening, speaking, translating and reading difficult texts, using grammatical knowledge learnt in the previous courses, and at the same time it provides some information about Italian culture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. 会話と読解の練習。
3. 小テストと直接法未来形。
4. Gerundio と進行動詞。
5. 会話と読解の練習。
6. 会話と聞き取りの練習。
7. 読解の練習と小テスト。
8. 直接法近過去と反過去その一。
9. 会話と読解の練習。
10. 直接法近過去と反過去その二。
11. 会話と読解の練習。
12. 人称代名詞。
13. 会話と読解の練習。
14. 聞き取り練習とテストの準備。
15. 期末テストとまとめ。

8. 成績評価方法：

会話・作文・翻訳・要約・聞き取りなどを通じて主に講義中に行なう。学期末に学習事項の確認テストを行なう。

9. 教科書および参考書：

講義中にプリントを配布する。

10. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ (准教授)

講義コード：LB43409, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：イタリア語上級（後期）

2. Course Title (授業題目)：Italian Language (Advanced Level)

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、様々なテキストの読解、翻訳を行ない、日常的な会話表現、聞き取りに関してもさらに練習を行なっていく。イタリア文化についてのトピックをとりあげ、それに関する語彙、知識を深め、イタリア語の高度な運用を目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In continuation with the previous semester, the students will carry on reading and translating texts, making listening exercises and improving their ability by acquiring everyday conversation's skills. The lessons will focus on a high level Italian, trying to deepen knowledge of Italian culture through the acquirement of new vocabulary and notions.

5. 学習の到達目標：

これまで学んできたイタリア語文法を用いて、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、イタリア文化に関しても学んでいく。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The course aims to improve the capacity of listening, speaking, translating and reading difficult texts, using grammatical knowledge learnt in the previous courses, and at the same time it provides some information about Italian culture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. 会話と読解の練習。
3. 接続法現在形。
4. 会話と読解の練習。
5. 聞き取り練習と復習。
6. 会話と読解の練習。
7. 条件法と接続法。
8. 会話と読解の練習。
9. 聞き取り練習と復習。
10. 直接法の遠過去と大過去。
11. 会話と読解の練習。
12. 聞き取り練習と復習。
13. 復習。
14. テストの準備。
15. 期末テストとまとめ。

8. 成績評価方法：

会話・作文・翻訳・要約・聞き取りなどを通じて主に講義中に行なう。学期末に学習事項の確認テストを行なう。

9. 教科書および参考書：

講義中にプリントを配布する。

10. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：専門中国語／ Advanced Chinese

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

Semester：3, 単位数：2

担当教員：チャン ペイルー（准教授）

講義コード：LB32307, 科目ナンバリング：LHM-CHN202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：中国語中級読解

2. Course Title (授業題目)：Intermediate Mandarin Chinese Reading

3. 授業の目的と概要：

中国語の初級科目で習得した語彙や文法知識を応用し、中級レベルの文章を読み解く練習をする。やや分かりにくい表現があっても、前後の文脈で考えられる解釈を推測する力を磨く。また、辞書で単語の意味を調べる練習もする。能動的に文章を理解する力を身につけることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course is designed for students to apply the knowledge of vocabulary and grammar that they learned at the beginner's level to read texts at the intermediate level. Even if there are some difficult expressions, students learn how to comprehend them with the help of the contexts. Also, students practice how to use dictionaries to find the appropriate explanation of new words. This course helps students to gain the ability to read and understand texts actively.

5. 学習の到達目標：

現代中国語のエッセイや新聞記事を正確に読み解く。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will develop the ability to read essays or news written in modern Mandarin Chinese with accuracy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>受講生が指定された箇所をあらかじめ和訳したうえで授業に臨む。授業では意味の確認のほか、関連文法ポイントの練習もする。

<進度予定>

第1回 ガイダンス

第2回 第一課本文：入学

第3回 第一課練習問題

第4回 第二課本文：祝日手当て

第5回 第二課練習問題

第6回 第三課本文：お母さん

第7回 第三課練習問題

第8回 第四課本文：先払い

第9回 第四課練習問題

第10回 第五課本文：贈り物

第11回 第五課練習問題

第12回 第六課本文：地方出身者

第13回 第六課練習問題

第14回 新聞記事の読解練習①

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

平常点：60%（授業態度、小テスト、課題など）

期末試験：40%

9. 教科書および参考書：

<教科書>『大学生のための現代中国 12 話・Ⅲ』杉野元子等、白帝社、2012 年

<参考書>『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書（新訂版）』、相原茂ら著、同学社、2016 年

10. 授業時間外学習：

予習：本文の内容をあらかじめ翻訳しておくこと。

復習：学習した内容をもう一度読み返し、すべて問題なく理解できたかを確認する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

成績評価における平常点の割合が高いため、普段の授業時に積極的な授業態度が求められる。

科目名：専門中国語／ Advanced Chinese

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：チャン ペイルー（准教授）

講義コード：LB42307, 科目ナンバリング：LHM-CHN202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：中国語中級読解

2. Course Title (授業題目)：Intermediate Mandarin Chinese Reading

3. 授業の目的と概要：

中国語の初級科目で習得した語彙や文法知識を応用し、中級レベルの文章を読み解く練習をする。やや分かりにくい表現があっても、前後の文脈で考えられる解釈を推測する力を磨く。また、辞書で単語の意味を調べる練習もする。能動的に文章を理解する力を身につけることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course is designed for students to apply the knowledge of vocabulary and grammar that they learned at the beginner's level to read texts at the intermediate level. Even if there are some difficult expressions, students learn how to comprehend them with the help of the contexts. Also, students practice how to use dictionaries to find the appropriate explanation of new words. This course helps students to gain the ability to read and understand texts actively.

5. 学習の到達目標：

現代中国語のエッセイや新聞記事を正確に読み解く。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will develop the ability to read essays or news written in modern Mandarin Chinese with accuracy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>受講生が指定された箇所をあらかじめ和訳したうえで授業に臨む。授業では意味の確認のほか、関連文法ポイントの練習もする。

<進度予定>

第1回 第七課本文：三種の神器

第2回 第七課練習問題

第3回 第八課本文：宅配員

第4回 第八課練習問題

第5回 第九課本文：結婚相手を探す

第6回 第九課練習問題

第7回 第十課本文：会食

第8回 第十課練習問題

第9回 第十一課本文：証人

第10回 第十一課練習問題

第11回 第十二課本文：部屋を借りる

第12回 第十二課練習問題

第13回 新聞記事の読解練習②

第14回 新聞記事の読解練習③

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

平常点：60%（授業態度、小テスト、課題など）

期末試験：40%

9. 教科書および参考書：

<教科書>『大学生のための現代中国12話・Ⅲ』杉野元子等、白帝社、2012年

<参考書>『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書（新訂版）』、相原茂ら著、同学社、2016年

10. 授業時間外学習：

予習：本文の内容をあらかじめ翻訳しておくこと。

復習：学習した内容をもう一度読み返し、すべて問題なく理解できたかを確認する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

成績評価における平常点の割合が高いため、普段の授業時に積極的な授業態度が求められる。

科目名：専門ドイツ語／ Advanced German

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：松崎 裕人（非常勤講師）

講義コード：LB33409, 科目ナンバリング：LHM-GER201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ドイツ語読解力の養成とドイツ語基礎の徹底
2. Course Title (授業題目) : Deutsch besser lesen und verstehen
3. 授業の目的と概要：

文学理論の入門書を読みながら、ドイツ語文読解力の養成をはかる。
併せて、ドイツ語辞典や補助教材の使用法に習熟する。
その作業を通して、ドイツ語基礎を確かなものとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Lesen der literaturtheoretischen Schriften.
Verwendung der wichtigen Materialien.
Ganz Erlernen elementaren Deutschen.

5. 学習の到達目標：

中級ドイツ語の文献を読解することができる。
独和辞典や学習独辞典・特殊事典を効果的に使うことができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Der Student kann Mitteldeutsch gut verstehen.
Der Student kann verschiedene Lexika und Materialien richtig benutzen.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 講読 (1) およびビューチャーケンデについて (1)
- 3 講読 (2) およびビューチャーケンデについて (2)
- 4 講読 (3)
- 5 講読 (4) および独辞典の活用 (1)
- 6 講読 (5) および独辞典の活用 (2)
- 7 講読 (6)
- 8 講読 (7) とまとめ (1)
- 9 講読 (8) および事典の活用 (1)
- 10 講読 (9) および事典の活用 (2)
- 11 講読 (10)
- 12 講読 (11) およびランデスクンデについて (1)
- 13 講読 (12) およびランデスクンデについて (2)
- 14 講読 (13)
- 15 講読 (14) とまとめ (2)

8. 成績評価方法：

小テスト 10 回 (50%)、授業での発表 (50%)

9. 教科書および参考書：

テキスト：

J. Culler 『Literaturtheorie. Eine kurze Einführung』 (Reclam UB, 2013 [2. Auflage])

4. Kap.: Sprache, Bedeutung und Interpretation (プリント配布)

それ以外のテキストや参考文献については開講時に、および随時、紹介します。

10. 授業時間外学習：

毎回、テキスト 1 頁から 1 頁半ほどの十分な準備が必要です。その段階で不明な箇所を洗い出し、それを授業時に確認し、復習によって確かなものとしてください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワー等については開講時に案内します。

科目名：専門フランス語／ Advanced French

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：石田雄樹（助教）

講義コード：LB33304, 科目ナンバリング：LHM-FRE201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：フランス語テキストの読解力を身につける

2. Course Title (授業題目) : French Reading Practice

3. 授業の目的と概要：

フランス語の基礎的な文法を学習した学生を対象に、フランス語文献の読解力の向上を目指します。論文や文学作品だけでなく、雑誌や新聞記事といったさまざまなテキストを読解することにより、フランス語を理解する力を総合的に養います。それに加えて、YouTube などの映像媒体を活用し、フランス語の聞く力・話す力も身につけることを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

We aim to develop the skill of reading French texts. We will read not only articles and literary works, but magazines and newspapers. By using YouTube, we also aim to develop oral skills.

5. 学習の到達目標：

- ・フランス語の中級文法がわかるようになる
- ・辞書を有効な使い方ができるようになる
- ・フランス語のテキストの読み方に慣れる

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The course will allow you to understand the developed French grammar and to read French texts well.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 辞書・参考書の紹介
3. 雑誌記事の読解
4. 雑誌記事の読解
5. 雑誌記事の読解
6. 雑誌記事の読解
7. 新聞記事の読解
8. 新聞記事の読解
9. 新聞記事の読解
10. 新聞記事の読解
11. 論文の読解
12. 論文の読解
13. 論文の読解
14. 論文の読解
15. まとめと試験

8. 成績評価方法：

平常点 50%、テスト 50%

9. 教科書および参考書：

プリントを使用します

10. 授業時間外学習：

References are handed out at every class.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：専門フランス語／ Advanced French

曜日・講時：前期 水曜日 5講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：メヴェル ヤン (教授)

講義コード：LB43504, 科目ナンバリング：LHM-FRE201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：Expression française orale et écrite
2. Course Title (授業題目)：Expression française orale et écrite
3. 授業の目的と概要：

Le cours prendra plusieurs formes. Il permettra :

- la lecture de divers types de textes
- l'audition de documents sonores
- une analyse de documents visuels
- des discussions sur des sujets de société
- des jeux de rôles

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Le cours prendra plusieurs formes. Il permettra :

- la lecture de divers types de textes
- l'audition de documents sonores
- une analyse de documents visuels
- des discussions sur des sujets de société
- des jeux de rôles

5. 学習の到達目標：

A l'oral comme à l'écrit, le cours permettra :

- d'enrichir le vocabulaire et de consolider la syntaxe
- d'augmenter les capacités d'argumentation
- d'améliorer les capacités de compréhension

Le cours aidera aussi à découvrir la vie quotidienne en Fr

6. Learning Goals(学修の到達目標)

A l'oral comme à l'écrit, le cours permettra :

- d'enrichir le vocabulaire et de consolider la syntaxe
- d'augmenter les capacités d'argumentation
- d'améliorer les capacités de compréhension

Le cours aidera aussi à découvrir la vie quotidienne en Fr

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Expression orale et écrite
- 2) Expression orale et écrite
- 3) Expression orale et écrite
- 4) Expression orale et écrite
- 5) Expression orale et écrite
- 6) Expression orale et écrite
- 7) Expression orale et écrite
- 8) Expression orale et écrite
- 9) Expression orale et écrite
- 10) Expression orale et écrite
- 11) Expression orale et écrite
- 12) Expression orale et écrite
- 13) Expression orale et écrite
- 14) Expression orale et écrite
- 15) Expression orale et écrite
- 16) Projection de film. Analyse et discussion

8. 成績評価方法：

Une participation à tous les cours est nécessaire. La participation à l'oral compte pour 50 %. L'évaluation sera aussi écrite (rédaction de plusieurs textes brefs).

9. 教科書および参考書： Le manuel sera choisi en fonction du niveau des étudiants présents.

10. 授業時間外学習：Des exercices permettront de revoir du vocabulaire ou des points de grammaire. Il faudra aussi rédiger des textes brefs en relation avec l'objet du cours.

11. 実務・実践的授業/Practical business： ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：漢文講読／ Chinese Classics (Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：渡部東一郎（非常勤講師）

講義コード：LB35306, 科目ナンバリング：LHM-LIT226J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：「諸子百家」文献講読

2. Course Title (授業題目) : Reading the original text of Hundred Schools of Thought

3. 授業の目的と概要：

この授業では「諸子百家」の中から儒家・道家・墨家・名家・法家の著名な文章の幾つかを取り上げ、講読する。その中で漢文を訓読によって読解するための基礎的知識を習得するとともに訓読法に習熟し、併せて各学派の思想的特色について理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, some of the prominent sentences of Confucian school, Taoist school, Mohist School, the School of Logicians, and Legalist School in Hundred Schools of Thought will be selected and read. This course aims students to acquire basic knowledge for reading classical Chinese texts in Japanese, to become proficient at the reading skills, and to deepen their understanding of the ideological characteristics of each school.

5. 学習の到達目標：

- (1) 漢文を訓読によって読解するための基礎的知識が習得でき、また訓読法に習熟できる。
- (2) 「諸子百家」の主要学派の思想的特色を具体的に理解することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

(1) Students will be able to acquire basic knowledge for reading classical Chinese texts in Japanese and become proficient at the reading skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

[内容・方法]

授業は受講者に口頭で訓読と現代日本語訳を発表してもらい、それを全員で討議する形で進める。なお、テキストは句読点及び返り点を付したものをを用いる。

[進度予定]

- 第 01 講 ガイダンス
- 第 02 講 『論語』講読
- 第 03 講 『孟子』講読 (1)
- 第 04 講 『孟子』講読 (2)
- 第 05 講 『荀子』講読 (1)
- 第 06 講 『荀子』講読 (2)
- 第 07 講 『老子』講読
- 第 08 講 『莊子』講読 (1)
- 第 09 講 『莊子』講読 (2)
- 第 10 講 『墨子』講読 (1)
- 第 11 講 『墨子』講読 (2)
- 第 12 講 『公孫龍子』講読
- 第 13 講 『韓非子』講読 (1)
- 第 14 講 『韓非子』講読 (2)
- 第 15 講 期末試験と解説

8. 成績評価方法：

発表・授業への取り組み (50%)、期末試験 (50%)

9. 教科書および参考書：

初回授業時にプリントを配布する。参考書は授業中に紹介する。

The text will be handed out at the beginning of the course. Reference books will be introduced during class.

10. 授業時間外学習：

辞書等で調べ、訓読と現代日本語訳を準備した上で授業に臨むこと。また、授業後に十分な復習を行うこと。 Students are required to prepare a Japanese reading and a modern Japanese translation of the text consulting dictionaries, and then to attend classes. In addition, it is necessary to perform sufficient re

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワーは中国思想中国哲学研究室 (617) で毎週金曜日 12:15~12:45 とする。

Office hours are from 12:15 to 12:45 on Fridays at the Laboratory of Chinese philosophy, Room617.

科目名：漢文講読／ Chinese Classics (Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：渡部東一郎（非常勤講師）

講義コード：LB45304, 科目ナンバリング：LHM-LIT226J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：「唐宋八家文」講読

2. Course Title (授業題目) : Reading the original text of The Eight Prose Masters in Tang and Song Dynasties

3. 授業の目的と概要：

この授業では「唐宋八大家」と称される、中唐の韓愈と柳宗元、北宋の欧陽脩・蘇洵・蘇軾・蘇轍・曾鞏・王安石の文章の中から著名な作品の幾つかを取り上げ、講読する。その中で漢文を訓読によって読解するための基礎的知識を習得するとともに訓読法に習熟し、併せて唐・宋士大夫のものの見方について理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, some of the most famous works selected from the texts of Han Yu and Liu Zongyuan in middle Tang Dynasty, and the texts of Ouyang Xiu, Su Xun, Su Shi, Su Zhe, Zeng Gong and Wang Anshi in the Northern Song Dynasty, who are referred to as "The Eight Great Prose Masters in Tang and Song Dynasties", will be read. This course aims students to acquire basic knowledge for reading classical Chinese texts in Japanese, to become proficient at the reading skills, and to deepen understanding of the mentality of scholar-bureaucrat in Tang and Song Dynasties.

5. 学習の到達目標：

- (1) 漢文を訓読によって読解するための基礎的知識が習得でき、また訓読法に習熟できる。
- (2) 唐・宋士大夫のもの見方を具体的に理解することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

(1) Students will be able to acquire basic knowledge for reading classical Chinese texts in Japanese and become proficient at the reading skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

[内容・方法]

授業は受講者に口頭で訓読と現代日本語訳を発表してもらい、それを全員で討議する形で進める。なお、テキストは句読点及び返り点を付したものをを用いる。

[進度予定]

- 第 01 講 ガイダンス
- 第 02 講 韓愈「送孟東野序」講読(1)
- 第 03 講 韓愈「送孟東野序」講読(2)
- 第 04 講 柳宗元「送薛存義序」講読
- 第 05 講 柳宗元「種樹郭橐駝伝」講読
- 第 06 講 欧陽脩「朋党論」講読(1)
- 第 07 講 欧陽脩「朋党論」講読(2)
- 第 08 講 蘇洵「弁姦論」講読
- 第 09 講 蘇軾「論范增」講読
- 第 10 講 蘇軾「留侯論」講読(1)
- 第 11 講 蘇軾「留侯論」講読(2)
- 第 12 講 蘇軾「方山子伝」講読
- 第 13 講 王安石「原過」、「読孟嘗君伝」講読
- 第 14 講 王安石「傷仲永」講読
- 第 15 講 期末試験と解説

8. 成績評価方法：

発表・授業への取り組み (50%)、期末試験 (50%)

9. 教科書および参考書：

初回授業時にプリントを配布する。参考書は授業中に紹介する。

The text will be handed out at the beginning of the course. Reference books will be introduced during class.

10. 授業時間外学習：

辞書等で調べ、訓読と現代日本語訳を準備した上で授業に臨むこと。また、授業後に十分な復習を行うこと。

Students are required to prepare a Japanese reading and a modern Japanese translation of the text consulting dictionaries, and then to attend classes. In addition, it is necessary to perform sufficient re

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワーは中国思想中国哲学研究室 (617) で毎週金曜日 12:15~12:45 とする。

Office hours are from 12:15 to 12:45 on Fridays at the Laboratory of Chinese philosophy, Room617